

火ばら談義

支え合う家族

塩澤真千子

子どもの頃、歴史上の人物も、有名な科学者や芸術家も、立派だけれど、その偉業や業績は家族や周囲の支えのおかげだろうと考えていました。なぜそう考えたかというところ、私の育った家庭・家族の姿に、少なからず理由がありそうです。

私の父は職人で、気温や天候を考えながら仕事を進めるので、朝早くから仕事に出ていくことが多く、いったん夕飯を食べたからまた現場に向かうこともありました。母はそんな父が家で体を休め、外で怪我などしないように、精一杯いい仕事ができるように、食事の準備を怠ることはなく、汚れた作業着もすぐに丁寧に洗って整えていました。

「風呂！」でした。「お父さんが外で働けるのは、お母さんのおかげだよ。」と、母と話したこともよくありました。もちろんその父のおかげで、家族は暮らせたのだから感謝です。父親も母親も高齢となり、母親が体調を崩した時、これは大変だと思いました。父は「いったいどうなるのか」と。しかし現在、朝早くから野菜を刻んで味噌汁を作り、魚を焼いている父親の姿があります。母の手を引きご飯を盛りつけ配膳するのも父です。「一生懸命支えてくれたからな。しょうがないぞ。」と、少し照れていますが。



親が朝早くから仕事に出るなら、自分でご飯を盛ることを切ないと感じるのではなく、み

んなで支え合っているんだと子どもが自信をもてること。そのため必要なことは何か、保護者の皆さんと話してみたいと思います。(日野小)



カット 東中 小林奈津子

異業種体験研修を通して学んだこと

山戸 純江

夏休みに、異業種体験研修に取り組みさせていただいた。郷土食でもある「おやき」はそれぞれの地域によって製造過程も異なる。今回研修をさせていただいた「おやき屋」さんは、揚げ焼きでのおやきであった。おやきといえば、蒸す・焼く・蒸かすのが主流の中、油で揚げたおやきがとても不思議だった。その由来を尋ねると、「おやき屋」さんの「主人が幼少の頃、母親が作ってくれたおやきが油で揚げた「おやき」だったそう。それから約八十年たった今、その揚げ焼きのおやきはすっかり地域の味となって定着した。お盆の時期には、懐かしい味を求めてお客さんが長蛇の列になり購入していくのだと



話をしてくださった。早い時には六時前にお客さんからの注文が入ってくるそう。実際、研修中も、お盆用のおやきの注文が殺到し、店頭での注文もひっきりなしだった。そんな中、おやきを受け入れたが、快く本研修を受け入れた。今、おやきの素材でもある丸なすを、さいの目に切る作業をさせていただいた。二日間であったが、コンテナに山盛りになった丸なすが二、三山、八百

編集後記

(須坂支援学校)

令和三年度会報二三五号を発行し、無事にお届けすることができました。

今号は、特色ある教育活動など、各校で大切にされていることを紹介していただきました。また、新たに「フォトギャラリー」を掲載しました。コロナ禍にあっても、知恵と工夫で、様々な取り組みをされている様子が伝わってきました。子ども達のしなやかさ、たくましさから、元気をもらえた気がします。



森上小学校におけるESD

森上小学校



須坂市では今年度、「須坂市小中学校ESD推進計画」が策定されました。森上小学校でも三年前からESDを志向した学習に取り組んでいます。森上小学校の特色ある行事の一つに「おおぎり発表会」があります。この発表会は、生活科と総合的な学習の時間の学習成果を発表する場です。授業時数の増加により行事の精選が進む中、新しい行事を作ることにはある意味で挑戦でしたが、今ではその意義や子どもたちへの教育効果を職員で共有し、よりよい行事になるように更新しながら、今年で三年目を迎えます。

取り組みを始めた当初は、ESD(持続可能な開発のための教育)ときいて、今までの実践に何か新しいものを加えたり、特別なことをしたりするような感覚をもつ職員もいました。しかし、研修を通して、ESDの「持続可能」という考え

は、現行の学習指導要領の根底にあるものであり、ESDで取り上げられる内容は必ずしも新しいものではないといふこと。ESDの視点で捉え直すことは、子どもたちが身につけた資質・能力と実社会や実生活がどのようにつながるをもつていのかを考えると重要だと認識することもできました。

具体的な取り組みとして、ESDと関連が深いSDGsの目標を意識することから始まります。ESDは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

第235号 発行所 上高井教育会 発行人 上高井教育会理事長 片桐茂和 編集人 会報編集委員長 西原秀明 印刷所 須坂新聞社



とされ、SDGsの十七全ての目標の実現の鍵であるとも言われています。持続可能な社会の構築という大きな目的に向かって、SDGsという具体的な目標があることで、子どもたちの活動の展開に方向付けができた。身近な活動から広範囲な活動へと発展したりする可能性が生まれます。

そのためには、生活科と総合的な学習の時間の充実が必要だと考えました。子どもたちの興味・関心に基づく探究課題を設定すること。自主的に課題を発見し、その解決に向けて主体的・協力的に探究すること。探究で

きるようになるとも、各教科領域の学習を横断的につなげられるカリキュラムを意識すること。身に付けた資質・能力を総合的に働かせられるよ



うに目指しています。「おおぎり発表会」では、全校で探究的な学習の成果を発表し合います。子どもたちは、発表会に向けた準備を進める過程で、互いに学び合い、助け合いながら協働して活動に取り組んでいます。また、発表をする

- 7 16 第2回研究委員会中心講師の指導・講演 講師 野上 康先生 (信州大学芸術研究科 教育学系 教授 演題「子どもと共に学ぶ授業」 研究会 企画委員会)
27 29 同好会夏期講座・同好会④ (各会毎独自開催)
30 教育会夏期講演会 講師 松崎達之助先生 演題「命の光を大きく輝かせるために」
8 18 19 日本連合教育会研究大会 香川大会 (オンライン開催)
27 上高井教育七団体代表者会(書面にて)
2 第4回同好会
3 第5回同好会
4 上高井教育研究会⑨(レポート配布)
8 第4回理事会
21 上高井教育七団体要領団員教育委員会へ 要望書提出
30 第5回研究推進委員会
5 第9回教研推進委員会(中止)
5 信州教師塾B「作文力研修」 講師 山崎文智氏(信毎記者 センター次長)
8 第6回同好会
16 第6回研究推進委員会
17 郡科学作品展
24 あゆみ展 都市展覧会 シルキホル
28 第7回研究推進委員会
2 第5回理事会 令和3年度教育会中間会計監査
5 第7回同好会
10 上高井教育会公開授業研究会
中心講師 野上 康先生
◎ 中心講師 指導 社会(仁礼小)
◎ 講師 野上 康先生(理科) 相澤 幸生(保健) 斎藤 孝(保健) 斎藤 孝(保健) 斎藤 孝(保健) 斎藤 孝(保健)
16 特別支援教育推進委員会 健康教育推進委員会
◎ 令和3年度教育会中間会計監査報告
◎ 令和4年度教育会事業計画案
信州教育の日 本大会(オンライン配信)
第2回教研三団体代表者会
第8回同好会
第8回同好会
第8回研究推進委員会
21 上高井教育会報235号発行